

妙蓮寺

[お茶とアート]

妙蓮寺は京都で最も古い日蓮仏教のお寺の1つです。日蓮宗の創始者・日蓮（1222～1282年）から京都での布教活動を任された高僧の日像（1269～1342年）により、1294年に創建されました。この寺は1587年から現在の場所に建っていますが、建物の大部分は1788年に近隣地域を壊滅させた火事の後に再建されたものです。

妙蓮寺は、完璧に掻きならされた白い砂利の海から16個の黒ずんだ岩が立ち上がる、十六羅漢石庭で有名です。それらの岩は、日蓮宗の教えの基礎となっている法華經において救いをもたらすとされる、菩薩を表しています。この庭は1600年代初頭に作られたと考えられており、最近その当初の外観に復元されました。

庭に面している書院の建物のふすまには、植物や動物など自然をテーマにした絵が描かれています。1980年代に幸野豊（Kono Yutaka）が描いたそれらの作品は季節の移り変わりを表現しており、それぞれの季節の光の中で見た時に特に美しく見えるように考案されています。例えば、カエデの赤い葉の描写は、11月の日中の低く差し込む光の中で、その色の全面的な豊かさをさらけ出します。